新たな 県指定文化財 のご紹介

令和7年3月18日（火）に開催した教育委員会定例会において、「大般若経」と「紀伊徳川家墓所」を新たに和歌山県指定文化財に指定しました。これにより、県指定文化財の件数は591件となりました。今回は、これらの新規指定文化財についてご紹介します。

有形文化財（書跡・典籍） 大般若経（600帖）

海草郡紀美野町に所在する小川八幡神社所蔵の大般若経は、奈良時代から室町時代にかけての写本全600帖を全てそろえる、県内で最も古い大般若経です。大般若経は、災いを祓う力を持つと信じられました。小川八幡神社での集積は正平18（1363）年頃に始められ、約60年後にひとまず完了しました。奈良時代に紀伊国で発願された民間写経を多数含み、奈良・平安時代の写経が全体の8割を占める大般若経として極めて貴重です。また、中世に境相論の舞台となった小川荘の、結束と信仰の営みを示す資料としても高い価値を有していることから、有形文化財（書跡・典籍）に指定されました。

記念物（史跡） 紀伊徳川家墓所（1,253㎡）

紀伊徳川家墓所は、和歌山市吹上に所在する日蓮宗報恩寺の境内に立地します。寛文6（1666）年に紀伊徳川家初代藩主・徳川頼宣の正室・瑤林院の菩提を弔うため、二代藩主・光貞により墓所が整備されました。墓所内には、藩主正室の墓石をはじめ、藩主の側室・子息・息女の墓石が建立されています。

当墓所については、『南紀徳川史』において明治8（1875）年に改葬が行われたことが記されていますが、改葬の痕跡や絵図との比較から、瑤林院の墓石やその周囲の改修は行わずに現在の墓石配置に改修したと考えられます。

紀伊徳川家墓所は、御三家である紀伊徳川家の藩主に関係する人物の墓所であり、墓石が良好に残存しているだけでなく、江戸時代から明治初頭にかけての親藩における墓所の変遷が確認できるという特質を有しており、資料的価値が高いものであることから、記念物（史跡）に指定されました。

県内の文化財について詳しく知りたい方は、
ウェブサイト「わかやまの文化財」をご覧ください

展示・イベント

本県には、美術作品や文化財などの「和歌山の宝」がたくさんあり、これらを直に鑑賞できる場・機会を増やすため、県立博物館施設では様々な企画展覧会を開催しています。特に高校生までの児童生徒については、入館を無料にしていますので、友達同士や家族連れで、ぜひお越しください。

いずれも休館日は月曜日（祝日の場合は翌平日）です。
県立近代美術館・県立博物館・県立紀伊風土記の丘・県立自然博物館は有料ですが、高校生以下・65歳以上・障害者の方は無料です。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

県立自然博物館

特別展

所海南市船尾370-1 ☎073-483-1777

再発見!紀の川の魚類

期間 7月19日(土)～8月31日(日)
場所 自然博物館レクチャールーム
通常の入館料で観覧いただけます

今年の特別展のテーマは、和歌山県を代表する河川である紀の川の魚たちです。紀の川にはどんな魚が暮らしているのか?人と魚はこれまでにどのような関わりを持ってきたのか?今回の特別展では、身近で知らない紀の川の魚類の魅力を皆さんにお伝えします。

県立博物館

夏休みこども向け企画展

所和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8670

くらべてみよう!ふたりの絵

期間 8月2日(土)～9月23日(火・祝)

ずっとむかし、江戸時代のわかやまに、とても絵のじょうずなふたりの画家がいました。桑山玉洲さんと野呂介石さんです。一歳ちがいで、友だちでもあり、きっとライバルでもあったふたり。絵をみくらべて、それぞれの好きなところをみつけてみてね。

那智畳巒図（なちじょうらんず）野呂介石筆（当館蔵）

県立図書館

サマー遊ing2025
～遊びの中で「学ぶ楽しさ・知るよろこび」～

所和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9530

期間 8月3日(日)～6日(水)
※月曜休館日を除く3日間

ウミガメの赤ちゃんとのふれあいを通じて、和歌山の豊かな海を体験!他にもおもしろ工作、勾玉づくり、こども落語寄席、高校生によるマルシェ、当館司書による楽しい企画を予定しています。

県立近代美術館

なつやすみの美術館15
美術の歴史と歴史の美術

所和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8690

期間 7月12日(土)～9月15日(月・祝)

こどもも大人も、さまざまな世代が一緒に楽しむ展覧会「なつやすみの美術館」。毎年、夏休み期間に開催しているこのシリーズも15回目となりました。美術館に作品がある理由やその並び方について、考えたことはありますか?
今回は「歴史」をキーワードに美術の世界を探っていきます。学校の先生たちと一緒に作ったワークシートも準備しています。

昨年度の様子（大学生と一緒にトーク）

高井貞二《エミグラントの街》1940年（当館蔵）

和歌山をめぐるローカリズムとモダニズム

期間 7月12日(土)～9月15日(月・祝)

ローカルであること、モダンであること、私たちが暮らす和歌山という地域をめぐって主に明治時代以降の近代という時代と美術について、コレクションを中心に振り返ります。

シアトル・マクブライド・スタジオ《ブロンズに寄る保田龍門》1920年（当館蔵）

県立紀伊風土記の丘

夏期企画展

所和歌山市岩橋1411 ☎073-471-6123

高野山麓・山里のしごと

期間 7月12日(土)～9月7日(日)

高野山麓の山里の集落に息づいてきた仕事や生活、信仰に関する民俗文化財を中心に高野山を支えてきた集落のくらしぶりについて紹介します。

樋子（ひし）の搾油用具（当館蔵）